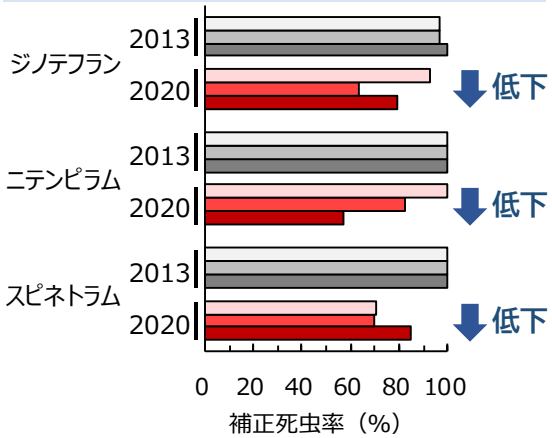
三重県トマト産地におけるタバココナジラミバイオタイプ Q の殺虫剤感受性

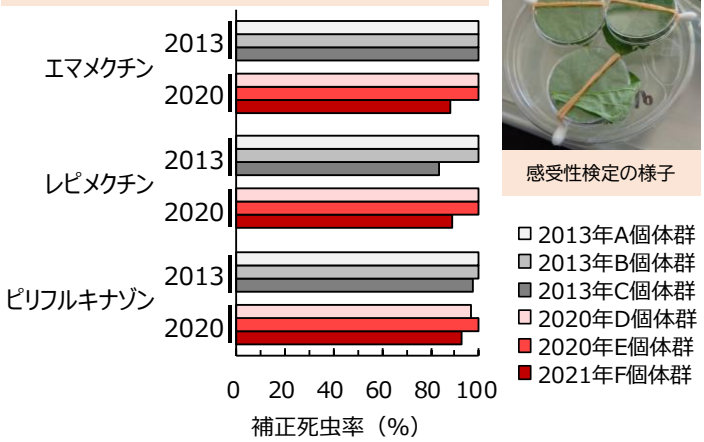
利用対象：生産者、指導者

県内トマト産地では、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病やトマト黄化病による被害が近年問題となっており、要因として本種の殺虫剤感受性の低下が考えられます。そこで、タバココナジラミバイオタイプ Q の殺虫剤感受性検定を行い、2013 年と現在の状況を比較しました。

殺虫剤感受性が**低下**



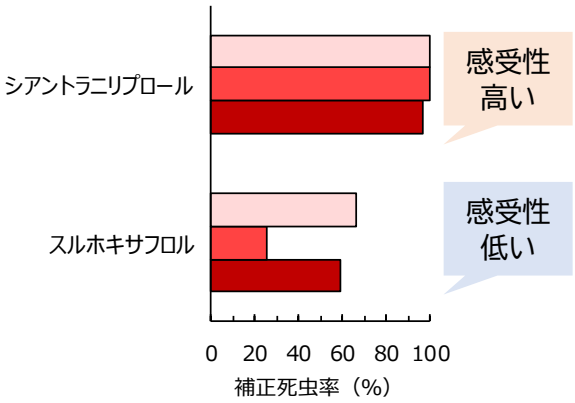
殺虫剤感受性が**高い**



感受性検定の様子

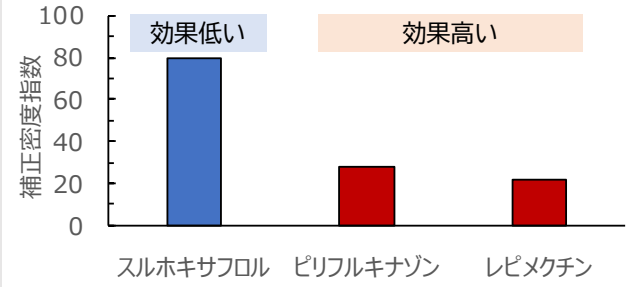
6 剤のうち 3 剤で、2013 年と比較し **2020 年採集個体群で殺虫剤感受性が低下**していました。

2017 年以降トマトで新たに登録された薬剤



新たに登録された剤でも感受性の低いものがありました。

圃場における密度抑制効果



殺虫剤感受性が顕著に低下している剤は、実用的な防除効果が得られません。

2013 年と比べ、タバココナジラミに対する防除効果の高い剤が減っており、ウイルス病の防除が困難となっています。微生物殺虫剤等を取り入れ化学合成殺虫剤の使用回数を減らしたり、耕種的防除などを組み合わせたりするなど総合的な防除を心がけましょう。

お問い合わせ先	基盤技術研究室 農産物安全安心研究課 佐々木彩乃　電話 0598-42-6360 中央農業改良普及センター　中村元彦　電話 0598-42-6323
参考になる資料	関西病虫害研究会報 2022年 64巻 p. 151-154 三重県におけるタバココナジラミバイオタイプQ成虫に対する主要殺虫剤の殺虫効果